

小椋君(吾妻)が最優秀

民友賞は野地君(平五)

全国選抜小学生プログラミング大会真大会は17日、南相馬市原町区の福島ロボットテストフィールドで開かれた。最優秀賞は猪苗代町の小椋正晴君(吾妻小5年)、福島民友新聞社賞にはいわき市の野地瑛大君(平五小6年)が選ばれた。最優秀賞の小椋君は、来年3月5日に東京都で開かれる全国大会に出場する。

福島民友新聞社などでつくる実行委員会の主催、全国新聞社事業協議会の共催、県情報産業協会の協賛。

「みんなの mirai」をテーマに自分、大切な人、地域など、みんなの明るい未来のために役立つようなコンピュータプログラムやプログラム化したいアイデアを募集した。

大会には4個人、2チームが参加。児童は人口減少や環境などを題材にしたソフトウェアを開発し、制作した背景や工夫した点などを発表し、最優秀賞の小椋君は「E COでお得生活」と題したゲームプログラムを開発した。楽しくゲーム感覚でエ

コを知ってもらうことで、将来的に環境にやさしい地球ができることを知ってもらう内容にした。小椋君は「やっと最優秀賞を受賞できてうれしい。全国に向けて、さらに機能を追加したい」と喜びを語った。

大会では、島村浩福島高専情報処理教育センター長や添田喜史福島民友新聞社営業局次長らが審査員を務め、発想や表現力などを審査した。ほかの受賞者次の通り。

福島民友新聞社賞に選ばれた野地君



福島民報社賞 西山美野里(泉小3年)▽県情報産業協会賞 醍醐みづほ(森岡蓮・安積二小5年、神山大葵・同)▽アイデア賞 かわき方ルチャイア研究会 2022 (相沢以安・小玉小6年、安藤慧・勿来一小5年、青天目旭陽・同、大和田哲秀・郷ヶ丘小5年)▽審査員特別賞 若林玲子(磐崎小2年)



最優秀賞に輝いた小椋君(画面内)